

茶葉で飲むお茶の環境

先週号でお伝えしましたが、ペットボトルが大きな勢力で消費者に浸透しています。さらに保健機能食品、特定保健用食品と政府からお墨付きをもらった商品群がより説得力をもち、高齢社会に浸透しています。葉なのか嗜好品なのかこの辺の判断が一つの突破口になります。お茶は、沢山飲んでも健康に対しての副作用がない、つまり過剰摂取の問題は起こりません。巷で宣伝されている健康食品は、痛み止めのような成分が混じったりしているので人によってはかぶれたり副作用が出てきますし、本来の治療薬ではないので市場からは消えていくものだと思います。それともう一つのこれらの商品の問題は、高額であるということです。つまり定期的にお買われるので経済被害として認知されていきます。これらの製品の知識をもち、我々の嗜好品としてのお茶を堂々と売って宣伝します。対比するライバルがあれば、宣伝はしやすくなります。競争相手となる商品を知り自分達の主力商品の利点、欠点さらに消費者に知ってもらいたいこと、消費者が知りたいことを伝えることが、このような大手の寡占状態の経済状況では必要なことであり、知らせるための方法を考え出さなければなりません。

朱泥の粘土の中に長石を多く入れガラスのような艶をだした東海道五十三次等の図柄を彫刻した急須

		
舜園 1	舜園 1	舜園 1

柴田好明 三代山田常山に師事した。父親が作った燻し黒の技術を復活させた。第一人者

		
好明 1	好明 2	好明 3

		
春山	先代友仙	菁山